



第10回 やぶ医者大賞



表彰式・記念フォーラム

やぶ医者大賞は、「やぶ医者」の語源が「養父にいた名医」であったことにちなみ、全国各地で地域医療に貢献している若手医師を顕彰するもので、今年も2名の医師に「やぶ医者」の称号を贈ります。

また、今年度はやぶ医者大賞10周年を記念し、全国の「やぶ医者」が一堂に会する「やぶ医者サミット」を開催します。



阿部 智介氏



井階 友貴氏

令和5年

11月11日(土)

13:30 ~ 15:30 (開場/13:00)

養父市立ビバホール

(兵庫県養父市広谷250 TEL.079-664-1141)

入場無料 (どなたでも参加できます)

*申込は不要ですが、場合によっては座席がない場合があります。

- 手話通訳があります
- やっぱー健康ポイント付与事業です

第1部：やぶ医者大賞表彰式・受賞者発表

主催者あいさつ・審査講評・表彰

受賞者発表

「故郷と共に生き 故郷と共に逝く
~そのときを迎えるために~」

あべ ともすけ 氏 (佐賀県 医療法人慈孝会七山診療所 所長)

「まちづくり系医師の挑戦

~持続可能なまちを目指して~

い かい ともき 氏 (福井県 高浜町国民健康保険和田診療所 地域医療イノベーションセンター長)

第2部

やぶ医者大賞10周年記念フォーラム「やぶ医者サミット」

やぶ医者大賞10周年にあたり、やぶ医者大賞受賞者である「やぶ医者」が一堂に会し、近況報告や地域医療の課題解決に関する新たな取組などを語る「やぶ医者サミット」を開催します。

サミット参加者

第1回～第10回 やぶ医者大賞受賞者

※第1回～第9回のやぶ医者大賞受賞者はオンラインにて参加予定

養父市医師会会長 枚田 一広氏 公立八鹿病院院長 西村 正樹氏

コーディネーター

京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンター 特任教授・京都大学名誉教授 中尾 一和氏

養父市医療福祉アドバイザー NPO法人但馬を結んで育つ会 代表理事 千葉 義幸氏

問合せ先

養父市健康福祉部健康医療課 兵庫県養父市八鹿町八鹿1675 (TEL.079-662-3165)

主催 養父市

後援

公益社団法人日本医師会、公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会、公益社団法人全国自治体病院協議会、関西健康・医療創生会議、認定NPO法人日本ホルモンステーション、公益財団法人健康加齢医学振興財団、兵庫県、一般社団法人兵庫県医師会、兵庫県市町診療施設運営対策協議会、NPO法人但馬を結んで育つ会、養父市医師会、公立八鹿病院



やぶ医者活躍地域

※番号はやぶ医者大賞受賞回
※勤務地は受賞時のもの

② 島根県西ノ島町 白石裕子氏

④ 岡山県鏡野町 澤田弘一氏

⑨ 広島県尾道市 次田展之氏

① 広島県北広島町 東條環樹氏

① 山口県萩市 前川恭子氏

⑩ 佐賀県唐津市 阿部智介氏

⑥ 熊本県小国町 片岡恵一郎氏

④ 滋賀県米原市 白井恒仁氏

③ 滋賀県東近江市 花戸貴司氏

⑧ 滋賀県長浜市 松井善典氏

⑩ 福井県高浜町 井階友貴氏

⑦ 愛媛県愛南町 松本毅氏

⑧ 北海道松前町 八木田一雄氏

⑦ 長野県小谷村 中井和男氏

⑤ 岐阜県郡上市 廣瀬英生氏

⑤ 山梨県南部町 市川万邦氏

⑨ 兵庫県丹波市 見坂恒明氏

③ 三重県鳥羽市 小泉圭吾氏

② 香川県綾川町 十枝めぐみ氏

⑤ 徳島県美馬市 藤原真治氏

江戸時代の俳人の松尾芭蕉の門弟である森川許六（もりかわ きょりく）が編纂した「風俗文選（ふうぞくもんぜん）」という俳文集の中に「藪医者（やぶいしゃ）の解」という一節があり、『世の中で「藪医者」という表現は、本来名医を表す言葉であって、今言われている下手な医者のことではない。ある名医が但馬の養父という所にひっそりと隠れるように住んでいて…。』と書かれています。

養父市では、「藪医者の語源が、養父の名医」であることにちなみ、名医の郷として「やぶ医者大賞」を実施しています。



藪医者の語源は、養父の名医！ 俳文集「風俗文選 藪医者ノ解」の一節より

藪医者（やぶいしゃ）の解 汶村（ぶんそん）

世に藪医者やぶいと號するは、本名醫ごうの稱にして、今いふ下手の上にはあらず。いづれの御ん時にか。何がしの良醫りょうい。但州養父たんしゅうやぶといふ所に隠れて。治療をほどこし。死を起こし生かえに回すものすくなからず。されば其風そのふうをしたひ。其業そのわざを習ふ輩やから。津々浦々にはびこり。やぶとだにいへば。病家も信をまし。薬力も飛がごとし。……

※出典：岩波文庫『風俗文選』（伊藤松宇校訂、昭和3年10月15日発行）

※この一節で藪医者に言及したのは許六ではなくその門弟で、許六と同じく近江彦根藩士の「汶村」という人物です。

この一節を意識すると次のようになります。

世の中で「藪医者」という表現は、本来名医を現す言葉であって、今言われている下手な医者のことではない。いつごろの時代であろうか。ある名医が但馬の養父という所にひっそりと隠れるように住んでいて、土地の人に治療を行っていた。死にそんな病人を治すほどの治療を行うことも少なくなかった。その評判は広く各地に伝わり、多くの医者の卵が養父の名医の弟子となった。養父の名医の弟子と言え、病人もその家人も大いに信頼し、薬の力も効果が大きかった。

なぜ名医の代名詞としての「養父医者」は、ヘタを意味する「藪医者」となってしまったのでしょうか。

「養父の名医の弟子と言え、病人もその家人も大いに信頼し、薬の力も効果が大きかった」と「風俗文選」にもあるように、「養父医者」は名医のブランドでした。

しかし、このブランドを悪用する者が現れました。大した腕もないのに、「自分は養父医者の弟子だ」と口先だけの医者が続出し、「養父医者」の名声は地に落ち、いつしか「藪」の字があてられ、ヘタな医者を意味するようになったと言われています。

このように「藪医者」の語源については様々な説がありますが、文献に基づくと「藪医者とは、もともと名医を表す言葉であり、その語源は養父の名医である」という説が本当ではないのでしょうか。